

自然言語の性質と自閉症者・共感覚者の知覚・認知

2019年10月21日(月) 15:00—17:00

本郷キャンパス工学部2号館3階 電気系会議室3

岩崎 純一

発表概要

15:00—16:30

1. 自然言語の性質 (音声、文字)

自然言語 (日本語や英語の音声や文字) の性質がどのようなものか (従って、自然言語の習得や使用にはどのような知覚様態と認知能力が必要か) について、その習得や使用に難のある人々の発話・作文例から探る。このような人々とは、すなわち端的には「言語障害」者のことだが (最新の DSM の訳語では「言語症」への言い換えが検討されている)、このほか、言語生活に難が出やすい自閉スペクトラム症 (自閉症、発達障害、アスペルガー症候群など)、統合失調症、PTSD などの人々、岩崎自身の例も挙げる。

2. 自閉症者の知覚・認知

昨今の「自閉スペクトラム症」の概念では、健常者と自閉症者 (ないし障害者なる概念全般) とを連続体として (非分断的に) 理解するのみならず、両者の違いを「コミュニケーション能力や社会性の有無・優劣」ではなく「知覚様態の差異」として理解することに重きを置くようになっている。これをさらに拡大して、動物、自閉症者、現代の「健常者」それぞれの知覚・認知のあり方を広く観察する。

3. 共感覚者の知覚・認知

共感覚とはいかなる知覚様態を言うのかについて、例を挙げ、1、2 との関連も考察する。

16:30—17:00 質疑応答

岩崎純一の紹介

1982年生まれ。東京大学教養学部中退。現在、財団事務局長、学術団体監事、日本大学芸術学部文芸学科非常勤講師など。その傍ら、共感覚、自閉スペクトラム症、精神障害、神経障害の研究とフィールドワーク、共感覚者 (被験者) としての実験協力、和歌の詠進・解説 (神社の石碑など)、作曲 (バレエ曲『夕麗』、『丹頂の舞』など)、人工言語「岩崎式言語体系」考案などを行う (岩崎純一学術研究所)。自身の共感覚、超音波知覚、写真記憶などの特殊知覚が科学者らに実験・研究されており、自らも知覚と芸術の関係など学際的な講義・研究を行っている。大学在籍時の研究内容は、東洋思想 (仏教哲学、神道など)、西洋実存主義哲学 (ニーチェ哲学など)。